再評価結果（平成２０年度継続箇所）

担　当　課：本省　都市・地域整備局　街路課
担当課長名：課長　松谷春敏

事業名	日豊本線連続立体交差事業（日向市駅付近）	事業区分	街路	事業主体	宮崎県
起終点	自：宮崎県日向市大字日知屋字エソバミ 至：宮崎県日向市南町			延長	１．６７㎞

事業概要　日向市駅を中心とした１．６７㎞区間の鉄道を高架化し、慢性的な交通渋滞と市街地の分断を解消するとともに、中心市街地の活性化を図るものである。

Ｈ１０年度事業化	Ｈ１２年度都市計画決定 （Ｈ１８年度変更）	Ｈ１３年度用地着手	Ｈ１４年度工事着手

全体事業費	８０億円	事業進捗率	９９％	供用済延長	１．６７㎞
計画交通量	４９，１００台時／日（踏切交通遮断量）				

費用対効果分析結果	B／C	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 6.7 (残事業) 1231.0	0.29/87 億円 事　業　費：0.29/87 億円 維持管理費：0.00/0.00億円	357/585 億円 移動時間短縮便益：228/342 億円 走行経費減少便益：129/243 億円 交通事故減少便益：0.00/0.00億円	平成１９年

事業の効果等

・踏切除去による安全性向上が図られる　・鉄道利用者の利便性向上が図られる　・市街地の一体化による地域活性化が図られる　・都市の拠点整備に資する　・都市景観に配慮した地域のシンボル的整備となる　外４項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

宮崎県施行の連続立体交差事業、日向市施行の土地区画整理事業等を一体的に進めることにより、中心市街地の再生に取り組んでいる。本事業の持つ、まちづくりへの波及効果は大変大きい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

円滑な都市交通の確保にとどまらず、景観・商業施策と連携したことにより、日向市のまちづくりが大きく進展している。地元耳川流域産杉をふんだんに使った駅舎は、日向・入郷地域の顔となっている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

Ｈ１８．１２に高架切替完了。
残事業としては、交差道路整備や電波障害・家屋損失の補償等

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

Ｈ２０に交差道路整備や電波障害・家屋損失の補償等を施行することにより、事業が完了する予定。

施設の構造や工法の変更等

高架橋部では「柱間隔10m、２本柱」を「１５m、１本柱」とすることにより、基礎工事などでコスト縮減を図っている。新しい技術開発を行い、地元耳川流域産杉を駅舎大屋根に使用している。

対応方針　事業継続

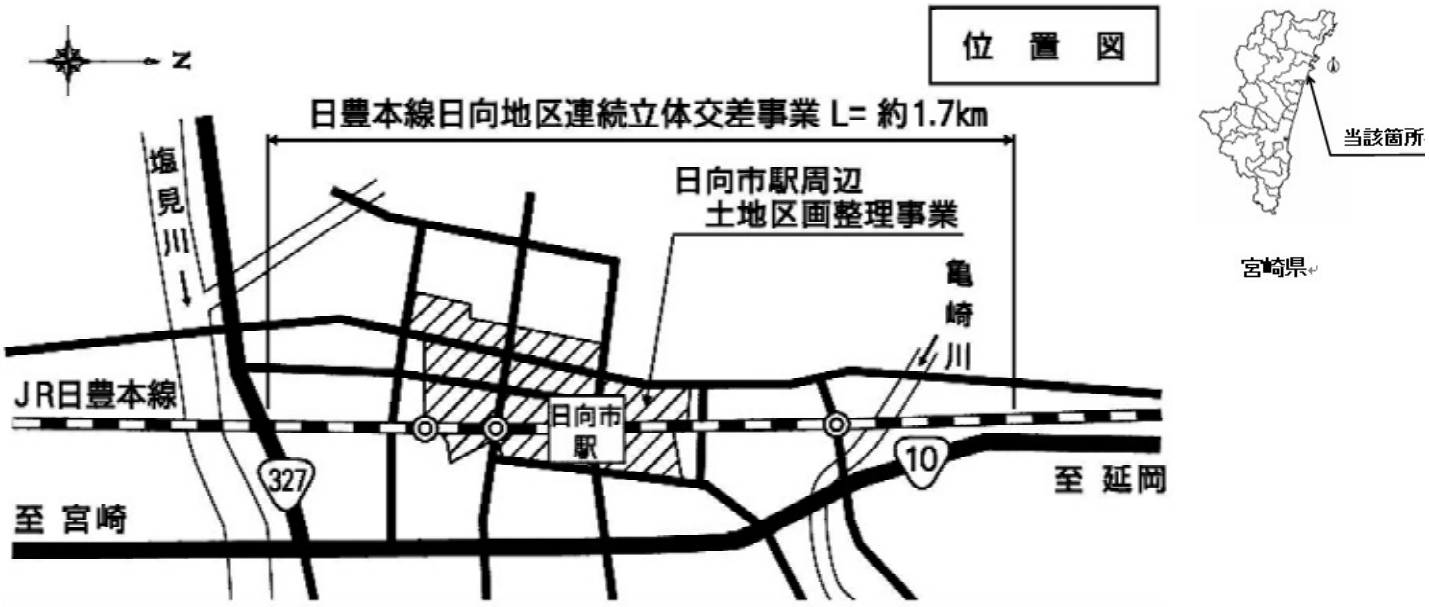
対応方針決定の理由

以上の理由を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

次ページ

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。


位　置　図
N
日豊本線日向地区連続立体交差事業 L= 約1.7km
日向市駅周辺
土地区画整理事業
塩見川
亀崎川
JR日豊本線
日向市駅
327
10
至 宮崎
至 延岡
当該箇所
宮崎県